

別冊の発刊について

『映像民俗学 - 討論。映像と民俗学を考える - 』

映像による民俗学・映像民俗学の理念と方法論を確立するための第一歩として、私たち「映像民俗学を考える会」の四人は、シンポジウムをおこないました。映像と民俗学をどう結んでゆくか。民俗学にとって映像とは何なのか。映像によって民俗学は何が可能になるのか。いくつかの問いとして発せられたこれらの諸シェーマは、まだ十分に理念化されたものとは言えませんが、映像民俗学の生誕の手懸りを可能にすると信じ、小冊子にまとめてみました。

- 1 民俗調査と映像
- 2 映像で何が可能か-映像表現と言語表現-
- 3 カメラとフィールド-映像の驕り-
- 4 民俗資料としての映像-民俗資料映像ライブラリー
- 5 映像表現の基本理念と方法-
- 6 映像民俗学の過去と未来

内容は以上の六章に分れ、野口武徳(社会人類学)、宮田登(民俗学)、野田真吉(映画作家)、北村皆雄(映画作家)の四人がそれぞれの立場から発言しています。

タイプ印刷、シルクスクリーン(手刷り)の写真が数枚はいった二十数ページほどのものですが、御希望の方には、実費でおわけ致します。発行/一九七七年一月十五日

領価/三〇〇円(〒'四〇円別・切手可)

編集発行所/映像民俗学を考える会

連絡先/〒157 東京都世田谷区成城六の一の二〇成城大学文芸学部野口研究室気付
郵便振替/(払込用紙を同封しますので御利用下さい)